



民話の舞台を訪ねてみよう

# “撮っておき” の たかはま

【第 35 回】

「ひと」「もの」「文化」などなど、有形・無形を問わず、高浜市の日常の暮らしの中にあるとっておきの「お宝」を紹介します。

訂正

広報たかはま5月1日号裏表紙「撮っておき」のたかはま掲載内容に誤りがありましたので、お詫びして訂正します。写真説明文（誤）「本行基葺き」→（正）「本瓦葺き」

## ドラゴンパーク（高平公園）と「蛇拔伝説」

吉浜地区の神明社に隣接する「高平公園」には、この地に伝わる「蛇拔伝説」にちなんで瓦製の巨大龍が設置されており、通称「ドラゴンパーク」と呼ばれている。巨大龍は平成13年から14年にかけて、三州鬼瓦製造組合や若鬼土会の鬼師が制作。うろこには、吉浜小学校の児童による瓦の陶板もはめ込まれている。2頭の龍の高さは約2m、胴の長さは約40mと約70m。東方を向き、“あうん”の形をとっている。龍の背中に乗ると、今にも動き出しそうな感じがする。迷路にもなっていて、子どもたちの格好の遊び場だ。

「蛇拔伝説」とは、吉浜村の高平に住む長者の娘とある若者の恋物語。その概要が瓦製巨大龍の胴部に刻まれている。若者の住まいも名前も聞き出せなかった娘は、若者の着物の裾に針で糸を縫いつけた。長者は糸を頼りに跡をたどり亀田の川淵まで来ると、のどに針が刺さって苦しんでいる大蛇（龍）がいた。針をぬいてやると大蛇は対岸の東浦へと渡っていった。

「蛇拔」「高平」「亀田」という地名は、かつては小学といわれ、今では芳川町内にある公園などの名前に残されている。図書館の郷土資料コーナーには、高浜の民話に関する蔵書も収められている。先人たちから語り継がれてきた民話の舞台を、訪ね歩いてみるのはいかがだろうか。

※参考文献：『高浜のむかしばなし』（昭和53年度高浜丑寅会刊）

LEIA A PÁGINA EM PORTUGUÊS!

ポルトガル語のページを読んでください！

広報 **たかはま**

編集・発行／高浜市役所総合政策グループ

〒444-1398 愛知県高浜市青木町四丁目1番地2  
TEL (0566) 52-1111 FAX (0566) 52-1110  
<http://www.city.takahama.lg.jp/>  
電子メール [info@city.takahama.lg.jp](mailto:info@city.takahama.lg.jp)

早期配布にご協力ください。



VEGETABLE OIL INK 広報たかはまは植物油インキを使用しています。